

普段公共交通を使用しない人は、公共交通利用についてどう思っているのか。普段はあまり公共交通を利用しないという笹鼻絵理子さんに話を伺いました。



1歳の子どもを連れて子育て広場ひまわりを利用する際、駐車場がなく公共交通を利用するよう案内があったので、バスを使ってみました。特に不便もなく、子どもも楽しそうに乗っていたので公共交通を利用するのも良いと感じました。ただ、普段の買い物など日常生活で使うには車の方が便利だと思うので、土日のお出掛けなどは公共交通を利用するなど、利用目的によって車を使い分ける感じになると思います。

私自身、小さい頃から公共交通を利用して育っていないので公共交通を身近に感じないのかもしれませんが、子どもの頃から公共交通を利用することで、公共交通利用への意識が高まると思いますし、公共交通の利用は社会のマナーなどを学ぶことができる大事な機会にもなると思います。

より利用しやすい環境にしてほしいと感じた点もいくつかありました。バスに乗る前、運賃などを調べていたのですが、何歳から子ども料金がかかるのかわかりにくく、また鉄道とバスで子ども料金の取り扱いが違ったりするのでもう少し案内を十分にしてもらいたいと思いました。運賃の支払いについても小さな子どもを抱っこして小銭を支払うのはなかなか難しいので、キャッシュレス決済が導入されればより皆に利用してもらえそうです。

私たちの移動を支える



市内公共交通をご紹介します

バス

京都交通バス
自主運行バス



特徴

拠点となるターミナルから複数路線を運行。観光施設や住宅街など、細かにカバーします。市内15系統の路線バスや7地域の自主運行バス、京阪神への高速バスが運行。

タクシー

日交タクシー、舞鶴京都タクシー、ふく福タクシー



特徴

「ドアtoドア」での送迎や行きたい時間に行きたい場所へ行けます。鉄道やバスなどで移動しづらい地域なども含め、市内全域をカバー。

鉄道

JR西日本
京都丹後鉄道



特徴

定時に多くの人を送迎できます。綾部方面にJR舞鶴線、敦賀方面にJR小浜線、宮津方面には京都丹後鉄道宮舞線が運行。

今年の秋は公共交通で

行楽の秋がやってきました。市内には風光明媚な観光名所がたくさんあります。普段は車を運転して行く場所も、これをきっかけに公共交通を使って行ってみませんか。いつも見る景色とは違う新たな発見があるかもしれません。未来のまちと自分を支えるために。

政だけでなく、市民や他の事業者も一緒になって「地域にあった交通のあり方」を実現するため、「まいづるバスクーポン」の販売などさまざまな取り組みを進めています。



特集

公共交通を考える

「あつて当たり前」と思われている公共交通。人口減少やコロナ禍の外出控えなどで利用が減り、公共交通を取り巻く状況は厳しさを増しています。大切な移動手段として公共交通を未来に残すため、私たちに何ができるか考えてみませんか。

《企画政策課》

移動を支える公共交通

公共交通は自家用車と異なり誰もが利用できる移動手段です。運転免許を持たない人や学生などの日々の移動手段であり、高齢者の貴重な移動の足としても利用されています。公共交通は、住民が安心して暮らし続ける手助けとなるだけでなく、地域の交流やにぎわいづくりなどまちの中でも重要な役割を持つ、欠かせない存在です。

未来のために「今」使う

人口減少による公共交通全体の利用者の減少、交通事業者の人手不足など公共交通を維持するための課題が深刻化する一方、高齢化の進行や核家族化・独居の増加などで、公共交通の必

地域に合った交通へ

市では、こうした課題や現状を踏まえ、昨年3月に「舞鶴地域公共交通計画」を策定しました。この計画のもとに、持続可能な地域公共交通を目指し、交通事業者や行

要性は今後ますます高まってくる。電車やバスがある風景は誰もが安心して暮らせるまちの風景です。このあたり前の風景は、事業者の経営努力によって支えられていますが、今後も維持していくためには私たち一人ひとりが積極的に公共交通を今利用することが大切です。公共交通の問題を「自分ごと」として関心を持ち、行動変容を起こすことが持続可能な公共交通につながります。